

北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

自然史編

第8回、幻の川「小泉川」

かつて澄川から平岸高台の麓を流れ、美園方面に流れる天然の川がありました。地下鉄南北線自衛隊前駅の東側、札幌新陽高校のあたりは標高100mほどの小高い丘(木挽山)になっており、新陽高校の麓には湧き水がこんこんと湧いていました(写真1)。

ここを水源とし、澄川小学校前を経て、南平岸駅前のあたりまではほぼ地下鉄南北線に沿う形で北へ流れ、東山小学校のあたりから平岸5条8丁目のラズストアのあたりを経て、豊平公園の東側を通り、最終的に望月寒川と合流していました(図1)。この川は小泉川と呼ばれており、いくつかの郷土史(さなぶり東裏百年ものがたり、郷土史すみかわ)の中で紹介されていますが、国土地理院発行(戦前は大日本帝国陸地測量部)の地図には載っていません。したがって川幅は最大でも1.5メートル以下だったはずですが。



写真1. 新陽高校麓の湧き水跡(図1の⑨)

東山小学校の開校20周年記念誌「東山」に収録されている座談会の中で、古老のお話として子供時代(昭和初期)の小泉川の様子が語られています。それによると、ヤマベ、ウグイが群れをなして泳いでおり、大きなザルを使ってすくい取り、焼いて食べていたことや、今では幻の魚と呼ばれているイトウをつかまえ、食べようと腹をさいたら中からネズミの死骸が出てきたので食べるのをやめたことが述べられています。

他にもドジョウ、沢ガニ、ザリガニ、カラス貝などたくさん生き物がいました。小泉川の流域は湿地帯となっており、ところによっては馬のお腹までつかえるほどの深いぬかるみがありました。したがって畑作には向かず、昭和初期にはすべて水田になっていました。当時の定山溪鉄道(現在の地下鉄南北線)が畑作と水田の境界となっており、鉄道の西側がりんご畑、東側が水田になっていました。



- ① 豊平区役所駐車場
- ② パシフィックヒルタウン
- ③ 5条11丁目3番地付近
- ④ 4条11丁目11番地
- ⑤ 奥内さん宅(写真2)
- ⑥ 4条12丁目12番地付近
- ⑦ 4条15丁目平岸南緑地
- ⑧ 3条17丁目2番地付近
- ⑨ 澄川小学校
- ⑩ 新陽高校麓(写真1)

図1. 小泉川の流路と湧き水跡(①～⑨)

今はすべて枯れてしまいましたが、昭和50年ごろまで、高台沿いにはいくつも湧き水が湧いている場所がありました(図1)。以前この連載で述べたように、この地域の高台部分は支笏火山が大噴火し、カルデラ湖を作った時の火砕流堆積物でできています。火砕流堆積物は火山灰と軽石から構成され、非常に水を浸透しやすという特徴があります。高台地域に降った雨水はその大部分が一旦地中へ浸透し、麓の崖のあたりから再び地表に湧き出していました。小泉川はこれらの湧き水を集めながら下流に向かい水量を増していきました。

しかし、宅地化が進み道路が舗装で覆われるようになってこれからの湧き水も次々と枯れていきました。平岸4条1丁目奥内さん宅内の湧き水(写真2)もその裏手の高台地域にマンションが建設された時に枯れてしまったそうです。湧き水の枯渇と呼応するように、小泉川の水量も徐々に減っていきます。昭和35年には、小泉川の末端は、東山小学校のあたりで途切れます(さなぶり東裏百年ものがたり)。昭和40年には、白石藻岩通りで、昭和48年には平岸3条17丁目のあたりで途切れています(札幌市現況図)。このころの小泉川は水量も少なく、用水路のような状態になっていました。昭和56年の札幌市現況図では小泉川の痕跡は全く認められず、この頃、周囲の湧き水が干上がるのと同時に消えてしまったと思われる。かつての川筋は今も部分的に下水路として残されていますが、雨が続きたり、融雪期には水が流れる状態になるそうです(写真3)。

参考資料『さなぶり 東裏百年ものがたり』、東裏親交会。

東山小学校開校20周年記念誌『東山』、東山小学校。

郷土史すみかわ、開基百年記念事業実行委員会。

バックナンバーお届けいたします。ご希望の方は販売所までお気軽にご連絡ください。ご自宅までお届けいたします。

「編集後記」 ～歴史の意義～

今回で本連載の自然史編を終了し、次回より縄文・古代編をスタートします(8月1日の予定)。自然史と私たちの暮らしとは一見無関係にも思えますが、この連載を通していかに人間に密接に関わってきたかある程度示せたかと思えます。支笏火砕流は石材としての札幌軟石をもたらし、それを運搬する交通網の発達をもたらしました。豊平川の扇状地は何度も洪水にあつてきた平野であり、今後も警戒が必要です。今回お話しした小泉川はこの地域の開拓時代の水田の発展に結び付きます。歴史とは単なる過去の出来事の羅列ではなく、常に現在・未来へとつながっているものなのです。

執筆者：道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年生まれ。金沢大学理学部地球学科博士課程(古生物学専攻)を修了後、六花亭に入社。2011年より現職。



写真2. 奥内さん宅の枯れる前の湧き水(図1の④)



写真3. かつての小泉川跡を流れる下水路(4条16丁目4番地付近)

◇発行元◇

(有)北海道新聞永田販売所

〒062-0936

札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18

TEL: 0120-128-348

Fax: 0120-128-358